

# 委託事業実施内容報告書

## 平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 国立大学法人高知大学

#### 1. 事業名称

海岸線 708 キロ横断：生活者としての外国人との共生事業—特に危機管理のための情報と日本語

#### 2. 事業の目的

東西に長い高知県は、漁業や農業に従事する外国人労働者が点在しており、中央部に位置する高知市とは異なる環境や地域性を考慮した日本語支援や国際交流を実施し、点在・多様化する個別のニーズを網羅・把握でき、しかも緊急時(南海大地震等)に対応出来る日本語支援組織と情報の一元化を目的とする。

#### 3. 事業内容の概要

室戸市から宿毛市にいたる海岸線 708 キロ間には、地域性と主に第 1 次産業に従事する様々な職種の外国人生活者が点在している。今まで、その異業種間の外国人同士の交流は勿論、文化・言語の共有、並びに住民との交流はあまり期待できなかった。しかし、南海大地震時を想定した、高知県全土を網羅する危機管理のための日本語支援体制を構築する必要がある。

#### 4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成24年11月17日 14:00~16:00	2時間	高知大学人文学部棟	夕部 茂・井倉 俊一郎 奥村 訓代 横山 小織 公文 素子・大内 彩 野村 麻里	1. プロジェクト説明 2. 今後の情報収集に向けての協力体制依頼、確認 役割分担 3. 研究スケジュール 4. その他	1. 内容説明(奥村) 2. 総括:奥村 市内外国人キーパーソン確認(井倉担当) 各種公的情報(夕部担当) それらを受けて、横山-土佐、須崎市担当 公文-土佐山田、香美市担当 和田・細木-南国市担当 大内・野村-高知市・春野町担当 また、テキスト班:大内、横山、細木 ハザードマップ班:公文、和田、野村 3. 2/16日本比較文化学会でのポスター発表 3/10研究発表会

【写真】



5. 取組についての報告

○取組1: 危機管理のための日本語テキスト作成

- (1) 体制整備に向けた取組の目標  
30年以内に起こるとされる南海大震災に向けて特に短期滞在外国人向けの危機管理日本語テキスト作成のための連携
- (2) 取組内容  
「短期滞在者用テキスト作成」
- (3) 対象者  
短期外国人滞在者など
- (4) 参加者の募集方法  
短期滞在者を中心に各市町村教育委員会、大学HP、知人への連絡を行った。
- (5) 参加者の総数 114人  
(出身・国籍別内訳 中国 6人, 韓国 6人, マレーシア 1人, インドネシア 4人, 日本人 97人)
- (6) 開催時間数(回数) 11.5時間 (全 5回)

(7) 取組の具体的内容

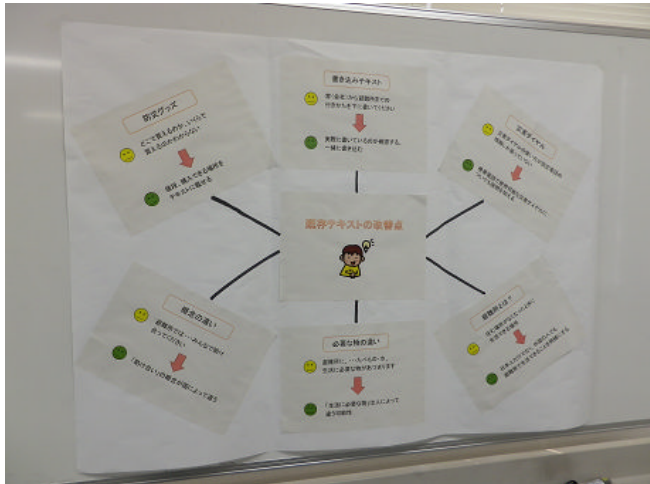
回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	補助者数	補助者	備考
1	平成25年1月17日 10:30~12:00	1.5	高知大学	20人	中国(5人)韓国(5人) 日本(10人)	日本の防災について	今後の課題と目標	1名	奥村訓代	—	—	教材名:他機関のパンフレット等
2	平成25年1月24日 10:30~12:00	1.5	高知大学	18人	中国(6人)韓国(5人) 日本(7人)	日本の防災入門1	グループによる意識・情報交換会	1名	奥村訓代	—	—	教材名:他機関のパンフレット等
3	平成25年1月31日 10:30~12:00	1.5	高知大学	18人	中国(6人)韓国(5人) 日本(7人)	日本の防災入門2	グループによる意識・情報交換会	1名	奥村訓代	—	—	教材名:他機関のパンフレット等
4	平成25年2月11日 10:30~12:00	1.5	高知大学	20人	中国(5人)韓国(5人) 日本(10人)	自分たちの経験した また望む防災について	グループごとのまとめと発表	1名	奥村訓代	—	—	教材名:他機関のパンフレット等
5	平成25年2月16日 13:30~17:00	3.5	高知大学	98人	マレーシア(1人)日本(97人)	高知の防災弱者を如何に救うか	取組の中間発表(日本比較文化学会にて)	1名	奥村訓代	6	公文、大内、野村、 横山、和田、細木	作成資料
6	平成25年3月10日 13:30~17:00	3.5	高知大学	32人	韓国(1人)インドネシア (4人)日本(27人)	The防災—中・高・大の 連携を模索する—	中高大それぞれの取組を発表し、今後の共同防災 のあり方を模索する	2名	宮田龍 奥村訓代 各学校代表者	3	野村、和田	各校作成資料

(8)特徴的な活動風景(2~3回分)

中・高・大の連携 (NHK取材、新聞掲載)

高知を観光で訪れる外国人にも分かる防災情報の提供を心掛けた。

また、同時に日本人と外国人の経験と知識の共有が防災に繋がることの認知について語った。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

テキストの基本的な部分は作成終了。しかし、必要と考える情報のすべては網羅することができなかった。

(10) 改善点について

想像以上に時間と労力を犠牲とし、マンパワーとお金の必要性を感じた。

**○取組2: 高知在住の外国人、特に少人数でありながら点在する労働者の実態把握と職種別基礎日本語の収集と整理**

(1)体制整備に向けた取組の目標

特に未知数・情報の少ない各種研修生情報の収集と情報の一元化に努めた。

(2)取組内容

聞き取り (訪問・電話・手紙)

(3)対象者

県市町村担当者、各種研修所責任者

(4)参加者の募集方法

アポイントを取り訪問・面談による情報収集の為、募集は行っていない。

(5)参加者の総数 10 人(訪問先対応者)

(出身・国籍別内訳 日本 10人 )

(6)開催時間数(回数) 13.5 時間 (全 8 回)〈訪問回数〉

(7)取組の具体的内容

回数	日時	時間数	場所	人数	国籍(人数)	取組のテーマ	概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	補助者数	補助者	備考
1	平成24年11月17日 14:00~16:00	2	高知大学	7人	日本(7人)	運営委員会	1. プロジェクト説明 2. 今後の情報収集に向けての協力体制依頼、確認、役割分担 3. 研究スケジュール 4. その他	-	-	-	-	-
2	平成24年12月13日 13:00~14:00	1	高知県国際交流協会	2人	日本(2人)奥村	県在住外国人の防災	一般情報収集	-	-	-	-	-
3	平成24年12月18日 13:00~15:00	2	春野町役場 南国市国際交流協会	2人	日本(2人)奥村	県在住外国人の防災	一般情報収集	-	-	-	-	-
4	平成24年12月19日 15:00~16:30	1.5	高知県国際交流協会	2人	日本(2人)奥村	県在住外国人の防災	吉田氏と面談	-	-	-	-	-
5	平成24年12月21日 13:30~15:00	1.5	高知市役所 防災課	2人	日本(2人)大内	県在住外国人の防災	現存するハザードマップ、外国人に向けての対応、外国人に対する防災対策等	-	-	-	-	-
6	平成24年12月21日 15:00~16:00	1	土佐市役所 土佐ふれあい協同組合	3人	日本(2人)横山	県在住外国人の防災	現存するハザードマップ、外国人に向けての対応、外国人に対する防災対策等	-	-	-	-	-
7	平成24年12月27日 14:00~15:30	1.5	高知県国際交流協会	2人	日本(3人)奥村	県在住外国人の防災	面談、調査	-	-	-	-	-
8	平成24年12月27日 13:00~15:00	2	須崎市防災課 黒潮農業研修所(須崎)	2人	日本(2人)横山	県在住外国人の防災	現存するハザードマップ、外国人に向けての対応、外国人に対する防災対策等	-	-	-	-	-
9	平成25年1月10日 19:30~21:00	1.5	須崎市役所	2人	日本(2人)大内	県在住外国人の防災	現存するハザードマップ、外国人に向けての対応、外国人に対する防災対策等	-	-	-	-	-
10	平成25年1月18日 15:30~17:00	1.5	須崎市役所	2人	日本(2人)奥村	県在住外国人の防災	防災担当者で打合せ	-	-	-	-	-
11	平成25年3月10日 13:30~17:00	3.5	高知大学	32人	韓国(1人)インドネシア(4人)、日本(27人)	The防災-中・高・大の連携を模索する-	中高大それぞれの取組を発表し、今後の共同防災のあり方を模索する	-	-	-	-	-

平成 24 年度 日本比較文化学会 3 支部会  
(関西支部・中四国支部・九州支部) プログラム

- 日時： 平成 25 年 2 月 16 日 (土)  
13 : 30 から 17 : 00  
(受付開始 : 13 : 00、R 325 にて)
  - 場所： 高知大学共通教育等 3 号館 2 F (323、324、325)
  - スケジュール： 13 : 30 開会の辞 (奥村訓代 高知大学教授、中四国支部長 )
  - シンポジウム： 13 : 40～14 : 50 R 325  
「私の視点から見る 多文化共生」  
講師 山内 信幸 (同志社大学教授、日本比較文化学会会長)  
中川 久公 (京都恵美須神社宮司、同志社大学嘱託講師・  
京都市立芸術大学非常勤講師)  
ダレン・リングリー (高知大学教授)  
司会 奥村 訓代 (高知大学教授、日本比較文化学会副会長)
  - 研究発表 : 15 : 00～17 : 00 R 323 および R324  
第 1 室 (口頭発表) R 323  
梶原 雄 (釜山外国語大学専任講師 : 韓国)  
金 テド (韓瑞大学教授 : 韓国)  
  
第 2 室 (ポスター発表、こちらは 16 : 30 まで) R 324  
「高知の防災弱者を如何に救うか」  
日本語・日本文化部会グループ発表  
  
17 : 10 閉会の辞 (山下明昭 香川大学教授、中四国支部副会長)
- ※12 : 00～13 : 00 支部理事会・運営委員会 R 323 にて開催いたします。**

(8)特徴的な活動風景(2～3回分)

漁業研修生、農業研修が毎年継続されていること、数人ずつの塊で人数がいる場合は、情報収集も今後の諸連絡にも方法論が見つかったが、それ以外の点在する外国人研修生の実態すら正確には把握できないのが現状である。

(9)取組の目標の達成状況・成果

短期あるいは観光外国人の多い高知市、須崎市、南国市を中心に研修生の存在が確認されている土佐清水、土佐山田、室戸地区まで調査する時間的・人的パワーが不足であった。

(10)改善点について

費用、時間、人材が揃えば、いつでも高知県全域にわたる本調査を行いたいと願っている。

○取組3:外国人のための危機管理マップの作成

(1)体制整備に向けた取組の目標

外国人旅行者にも理解できる、最小で最大の危機管理マップの提供

(2)取組内容

高知市の短期滞在外国人の多い地区を中心にハザードマップ作成を行った

(3)対象者

短期滞在外国人（観光客から6か月未満を中心に）

(4)参加者の募集方法

県、教育委員会、大学の短期交換留学生、研修所に打診

(5)参加者の総数 32人(研究発表会時の人数)

(出身・国籍別内訳 韓国 1人, インドネシア国 4人, 日本 27人)

(6)開催時間数(回数) 70時間 (全 26回)

(7)取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	作業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	補助者数	補助者	備考
1	平成24年11月17日 14:00~16:00	2	高知大学	7	日本(7人)	ハザードマップの作成	運営委員会	-	-	-	-	-
2	平成24年11月20日 19:30~21:00	1.5	高知大学	3	日本(3人)	ハザードマップの作成	情報収集と整理	-	-	-	-	-
3	平成24年11月27日 19:30~21:00	1.5	高知大学	3	日本(3人)	ハザードマップの作成	資料収集	-	-	-	-	-
4	平成24年11月29日 19:30~21:00	1.5	高知大学	3	日本(3人)	ハザードマップの作成	情報収集	-	-	-	-	-
5	平成24年12月4日 19:30~21:00	1.5	高知大学	3	日本(3人)	ハザードマップの作成	資料収集	-	-	-	-	-
6	平成24年12月6日 19:30~21:00	1.5	高知大学	3	日本(3人)	ハザードマップの作成	資料収集	-	-	-	-	-
7	平成24年12月11日 19:30~21:00	1.5	高知大学	3	日本(3人)	ハザードマップの作成	資料収集	-	-	-	-	-
8	平成24年12月18日 18:00~21:00	3	高知大学	3	日本(3人)	ハザードマップの作成	資料収集	-	-	-	-	-
9	平成25年1月8日 19:30~21:00	1.5	高知大学	3	日本(3人)	ハザードマップの作成	資料収集	-	-	-	-	-
10	平成25年1月10日 19:30~21:00	1.5	高知大学	3	日本(3人)	ハザードマップの作成	資料収集	-	-	-	-	-
11	平成25年1月12日 16:00~18:00	2	高知大学	3	日本(3人)	ハザードマップの作成	資料収集	-	-	-	-	-
12	平成25年1月15日 19:30~21:00	1.5	高知大学	3	日本(3人)	ハザードマップの作成	資料収集	-	-	-	-	-
13	平成25年1月22日 19:30~21:00	1.5	高知大学	3	日本(3人)	ハザードマップの作成	資料収集	-	-	-	-	-
14	平成25年1月24日 16:30~21:00	4.5	高知大学	1	日本(1人)	ハザードマップの作成	資料収集	-	-	-	-	-
15	平成25年1月24日 19:30~21:00	1.5	高知大学	2	日本(2人)	ハザードマップの作成	資料収集	-	-	-	-	-
16	平成25年1月29日 19:30~21:00	1.5	高知大学	2	日本(2人)	ハザードマップの作成	資料収集	-	-	-	-	-
17	平成25年1月31日 19:30~21:00	1.5	高知大学	3	日本(3人)	ハザードマップの作成	資料収集	-	-	-	-	-
18	平成25年2月6日 19:30~21:00	1.5	高知大学	3	日本(3人)	ハザードマップの作成	資料収集	-	-	-	-	-
19	平成25年2月6日 15:00~17:30	2.5	高知大学	2	日本(2人)	ハザードマップの作成	資料収集	-	-	-	-	-
20	平成25年2月7日 19:30~21:00	1.5	高知大学	3	日本(3人)	ハザードマップの作成	資料収集	-	-	-	-	-
21	平成25年2月11日 19:30~21:00	1.5	高知大学	3	日本(3人)	ハザードマップの作成	資料収集	-	-	-	-	-
22	平成25年2月14日 16:00~21:00	3	高知大学	3	日本(3人)	ハザードマップの作成	資料収集	-	-	-	-	-
23	平成25年2月15日 12:00~21:00	8	高知大学	3	日本(3人)	ハザードマップの作成	作成作業	-	-	-	-	-

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業  
地域日本語教育実践プログラム研究発表会

**The 防災 ～中・高・大の連携を模索する～**

- 日 時：2013年3月10日（日）  
受付 13：00～  
講演 13：30～14：20  
学生発表 14：30～15：30  
教員発表 15：40～17：00
- 場 所：高知大学朝倉キャンパス人文学部棟5F 第1会議室  
(高知大学朝倉キャンパス交通案内 <http://www.kochi-u.ac.jp/JA/m/acc.html>)
- 基調講演：演題『学校防災の必要性』  
講師 宮田 龍（高知市立潮江中学校 校長）
- 研究発表：それぞれの取組1（学生発表）  
・高知市立潮江中学校  
・高知県立高知工業高等学校  
・高知大学人文学部  
それぞれの取組2（視点とポイント）  
・中学の場合：高知市立潮江中学校  
・高校の場合：高知県立高知工業高等学校  
・大学の場合：高知大学人文学部
- 受講対象者：どなたでもご参加いただけます（申し込み不要）
- 主催：高知大学人文学部（文化庁委託事業）  
■共催：日本比較文化学会（日本語・日本文化部会）



【お問い合わせ先】

〒780-8520  
高知県高知市曙町2丁目5-1  
●文化庁委託事業責任者  
高知大学人文学部国際社会コミュニケーション学科  
奥村研究室 TEL:088-844-8205  
●高知大学人文学部事務室  
TEL:088-844-8172 , FAX:088-844-8354  
E-mail:ks22@kochi-u.ac.jp



#### (8)特徴的な活動風景(2~3回分)

従来のハザードマップでは、情報がそれぞれの提供施設・機関によりまちまちであり、また偏っていたが、それらの必要な情報を集約し、一元化し、同時に海抜を記すことにより、初めての訪問者や土地勘のないものにもどこの避難所に逃げるのが適切なのかが一目瞭然とするマップを完成させた。

#### (9)取組の目標の達成状況・成果

結果的には高知市のみの情報の提供となり、津波が危惧される南国市と須崎市も網羅できなかったのが残念である。

#### (10)改善点について

もう少し早めに取り掛かり、マンパワーと費用の必要性を認知しておくべきであった。

### 6. 事業に対する評価について

#### (1)事業の目的

日本の地震や津波未経験者である防災弱者である外国人にも高知の情報を提供し、また同時に日本人にも、そのような外国人の状況を十分理解し、できるだけ被害をくいとめ、避難所での共同生活を円滑に行うための異文化理解と多文化共生のためのテキスト並びにハザードマップの作成

#### (2)事業目的の達成状況

高知市については期待通りのものが出来上がった。

#### (3)地域における事業の効果、成果

他地域の情報や、既出の資料を参考に新しい情報や視点からの成果を出すことができた。特に短期外国人滞在者、日本人との共生をコンセプトとした教材やマップはなかった。

#### (4)改善点、今後の課題について 今後は予算措置できれば長期的な取組を希望する

##### i 現状 :ハザードマップは高知市のみ

テキストは、日本語がうまく話せない人用の情報が不足気味

##### ii 今後の課題:できれば継続し県のどこにいる人にも利用できる全体像を作成したい。

##### iii 今後の活動予定:作成したテキスト及びハザードマップについて、調査協力機関、関連団体に送付し、周知させていく。改善箇所も見受けられる為、26年度の申請にむけて準備を進めていく予定。

#### (5)その他参考資料

##### (終了後の感想抜粋)

- ・中学生の発表がわかりやすくてよかった。(インドネシア留学生)
- ・外国人に防災意識が低いことをはじめて知った。(学生)
- ・100円で命が買える(防災グッズが100円でも買えるという発表内容を受け)



- ・地域との関わりへのマスコミの大切さ（一般）
- ・子供が子供に伝える事は大切なこと。（一般）
- ・良いと思ったことを社会に知らしめてほしい。（一般）